

学校だより

2月号



三中HP

アクセス
QRコード

それゆけ三中

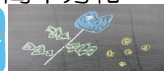
教育目標：より確かに・より豊かに・より逞しく

令和4年 2月4日

足利市立第三中学校

生徒数：190名

発行者：高木秀和



2月3日の節分の日、給食も節分の献立でした。十数年前までは、小袋の豆を教室で撒き合いましたが、現在は衛生上やフードロスの観点から見られなくなりました。また、夕刻には「鬼は外！福は内！」という言葉が、そこかしこの戸口から漏れていたものです。近頃というか、正確には1989年（昭和64年）以降、2月が近づくと、コンビニエンスストアやスーパー等の店頭には恵方巻きの広告が目立つようになりました。節分の夜に召し上がった人もいそうですね。私が子供のころは恵方巻を食べる風習はなく、気が付くというの間にか始まっていたというのが正直な感想です。調べてみると、江戸時代に、大阪の花街という場所で始まったという説がありました。その後、特に全国的な広まりはなかったのですが、一説では、広島県のセブンイレブンの店長さんが大阪出身で、1989年に節分のキャンペーンでのアイデアとして提案したのがきっかけだったそうです。ですから、一見、古からの風習に感じる恵方巻も、その全国拡散後の歴史は約30年、その根拠は商品のキャンペーンであったのです。

おはようございます

今日、2月3日は節分ですね。
みなさんの家では、豆まきなど
しますか？
「節分」といって「鬼は外！
福は内！」ですね。悪い鬼を
追い払い、いい福を呼びかけ
ますが、みなさんはどの鬼を
追いかけていますか？ じも新門
新しい春を迎えたいですね。

あるクラスの黒板

バレンタインデーやホワイトデーとも似ています。恵方巻の食べ方には、その年の方角を向いて、黙って、一気に、願いながら食べるという4つの約束があるそうです。ちなみに、方角は4つの方向を5年周期で周っており、壬寅の今年は「北北西微北」北北西にわずかに北、という方角です。疑問に思った始まりを調べて思ったのは、「家族揃って同じものを食べ一年の幸せを願う」ということが、かつての豆まき同様、素敵なことなのだなと思いました。「願う」ということに我々は惹かれるのかも知れませんね。

2年生 スキー宿泊学習 1/13(木)~15(土) 志賀高原



昨年度は3月に延期したスキー宿泊学習ですが、本年度は予定通りの実施となりました。スローガン「Teamwork Makes the Dream Work~燃え上がれ我らの絆~」のもと、2泊3日の行程を無事に終えることができました。スキーが初めてという生徒がほとんどですが、インストラクターさんの指導を熱心に受け、3日間で、スキーの初歩を体得しリフトに乗ってボーゲン（ハの字滑り）での滑走を楽しみました。そして、スキーの技術以上に、いろいろな気づきや体験ができたようです。また、2日目の夜には立志式を行いました。代表の生徒が作文を発表し、14歳、立志の志を披露しました。今回は、生徒の感想を幾つか、抜粋で紹介します。



【生徒の感想より】

★友だちの良いところ等をたくさん知ることができ、前よりも仲が深まってすごく嬉しかったです。★スキーの時も、泊まっている中でも自分が困ったことを手伝ってくれる友だちにありがたいなとすごく感じました。★私は改めてみんな優しいなと思いました。体調が悪い時に、みんな声をかけてくれてすごく良かったです。この学年には優しい人がいっぱいいるなと思いました。★立志式では、改めて自分の目標を作ることができたので、良かったです。

今回、スキー宿泊学習に参加できなかった生徒の皆さんも、事前や事後の学習や参加した人と共に過ごす中で、参加したのと同じ経験値が得られます。これからの時代、参加して当然ではなく、そこには個人の選択が尊重されて当然と考えています。



左から：立志式司会2組：■さん 運営委員長：■君 1組代表：■君、■さん 2組代表：■君、■さん

かなふり松チャレンジ 1/12(水) 足利市教育委員会が主催の、「かなふり松チャレンジ」という学力テストが、1、2年生対象に実施されました。これは、足利市で作成したテストを全校で実施するもので、足利市の児童生徒全ての学力向上をねらいとしています。ですから、テスト結果から自分の学習の到達度等を確認し、さらに、テスト終了後に提供される補強教材を活用して、復習をしたり、理解が十分でない分野を再度学習して次年度の進級に備えることが大切です。



1年生 国際理解教育講座 1/14(金) 足利市国際交流協会の■■■さんと■■■(■■■)さんを講師に国際理解に関するお話をいただきました。1年生の生徒皆さんの感想を紹介します。

【感想】○困っている外国の方がいたら、「やさしい日本語」で自分から声をかけたい。○姉妹都市や友好都市について知ることができてよかった。○世界のいろいろな挨拶を知ることができた。○世界には色々なルールやマナーがあるのだなと思った。○多文化共生社会はとて素晴らしいことだと思った。○外国から転校してきた友達にどのように接すればよいか理解できた。○震災の時の寄付の話が心に残った。



道徳研究授業とローテーション道徳



■■■先生と■■■先生が、中堅教員研修の一環として、道徳の研究授業を行いました。また、足利市の道徳教科研究員である■■■先生が、市の代表として研究授業を行いました。研究授業だけでなく、日頃から道徳の授業については、担任の先生同士で学年を越えて、意見交換したり、教材の紹介をしあったりして

います。さらには、■■■先生がコーディネイトの中心となり、担任以外の先生が授業をするローテーション道徳も計画的に実施しています。今年から教科となった道徳の授業をよりよいものにして、生徒の皆さんと考え、意見を出し合い、様々な価値観を共有したいと考えています。



ここも食べられる！VS.フードロスの学び



今回、特別支援学級では、普段は捨ててしまいがちな食材を美味しい料理にしてみました。まずは、冬が食べごろのみかん、その皮を捨てることなくスイーツにと、■■■先生のアイデアで、オレンジピールを作りました。オレンジの皮を細切り

りにしてチョコをかけた一片は見た目も味もおしゃれです。また、クラスの前で育てていたヤツガシラのお芋の部分は育ちが今一つでしたが、その茎の部分を利用して、ズイキの煮物を作りました。実ではなく、皮と茎、その脇役的な部位が、工夫と愛情でとても美味しい料理になりました。



ズイキ

オレンジピール

陰で支える、表で活躍する 一つになって起こること (2月 学校集会より) ○もう少しで、冬のオリンピックが始まります。オリンピック開催期間中はいろんなドラマが報じられますが、今日は、1998年の長野冬季オリンピック、スキージャンプ競技で日本チームが金メダルを取った時のことを紹介します。○スキージャンプ団体競技は、1チーム4人の選手がそれぞれ2回ずつ飛び、合計の得点を競います。4年前のオリンピック、最後の1本で失速し金メダルを逃した日本チームは「今度こそ」という思いで優勝を目指していました。全チームが1本目を終える頃に、降っていた雪や風が強くなったため競技はいったん中断しました。その時の日本チームの順位は4位。2回目で全員がいつも通りのジャンプを飛ぶことができれば優勝のチャンスは十分ある位置です。しかし天候はいっこうに良くなりません。審判団は、競技の中止を検討し始めました。このまま中止なら、日本チームは4位のまま長野オリンピックを終えることになります。審判団は、競技が安全に続けられることを確認するため、テストジャンプを行うことを決定します。テストジャンパーが通常通り飛ぶことができれば、2回目のジャンプを始めることにしたのです。○テストジャンパーは25人。自分たちが安全にジャンプできることを証明しなければ日本チームの金メダルはない。誰か一人でも転倒したら、そこで競技の中止が決まるというプレッシャーの中、ジャンパー全員が「選手を絶対に飛ばせてみせる」と、雪の中、間を空けずにスタートしていきます。そして、テストジャンプの最後に飛んだのは、自分が選手として長野オリンピックに出るために怪我を乗り越えて努力をしたにもかかわらず、代表になれなかった葛西選手でした。葛西選手の大ジャンプと同時に競技の続行が決定しました。テストジャンパーたちの貢献を知った日本選手は、どれだけ心が強くなったことでしょう。そして、日本チームは金メダルをつかんだのです。金メダルが決まった時に一緒に喜び、選手を胸上げしたのもテストジャンパーたちだったそうです。○学校では、3年生の高校受験や予餞会、そして新年度に向けた生徒会の取り組みが始まっています。表に立つ人も、陰で支える人もいます。同じ目的にむかってそれぞれの人が本気で役割を果たすことで、一緒に喜びあえる素敵なことが起こるのだと思います。どんなことを成し遂げたいのか、自分のできることは何かを大事にしていきたいですね。

しらくも む い ち すべ こ かがん つど
ちぎれ白雲の群れ 凍てつく地を滑り越し 河岸に集う

ひるさ にしび かた こ
昼下がりはぬるく 西日と語らうパンジーの子ら

